

2017年度 公益社団法人乙訓青年会議所
理事長所信

公益社団法人乙訓青年会議所
理事長 足立 雅也

はじめに

昭和26年「新日本の再建は我々青年の仕事である」という覚悟のもと、日本の青年会議所運動は、戦後の混乱の中、記念すべき第一歩を踏み出しました。終戦後わずか6年で祖国再建を志し、日本青年会議所を創立した先人達はまさに「混沌という未知の可能性を切り拓く」変革の能動者であります。日本青年会議所は、「奉仕」「修練」「友情」の三信条を掲げ様々な分野において、青年としての正義感、理想を追求する心、真摯な情熱という価値観のもと、積極的に運動を展開し、やがてその運動は全国に広がりを見せ始めました。

昭和54年、当時の乙訓地域は高度経済成長の最中にあり、目まぐるしい発展を続けながらも、地域間の連携や市民・行政・地域諸団体の連携、また、企業同士の連携という部分において課題も多く、そのような状況の中、熱い情熱を持った青年達によって「今こそ我々は郷土愛を再認識し、自らの研鑽を通じて友情を深め、明るい豊かな社会の建設に貢献せねばならない」という高い志のもとに、乙訓青年会議所は全国で659番目の青年会議所として誕生しました。それぞれの時代で人は変わり、手法や表現は異なっても、創始の「志」は脈々と受け継がれ、38年目を迎えた今も、現役メンバーの手で年代記は綴られ続けています。我々現役メンバーは、戦後の混乱期に祖国再建を志し立ち上がった先人達と、高度経済成長の最中、自らの利益を追求する事なく、乙訓のために立ち上がった先人達の想いを今一度自らに落とし込み、先人達への感謝を忘れず、今活動できている事に誇りを持たなければなりません。そして、その「志」を未来永劫引継ぎ、今後も乙訓青年会議所を継続発展させるためにも、まずは我々自身がぶれない心で、真っ直ぐに物事を捉え、共に活動している仲間への感謝を常に忘れず、何事にも積極果敢に挑まなければなりません。いつの時代においても、未来を築いていくのは我々青年の役目であり、それこそがJAYCEEとしての姿です。

ちよくしきょうしん 直志響心

今のこの世界を残すために、自らの人生を懸けた先人達があります。彼らは何のために人生を捧げようと考えたのでしょうか。物心共に荒廃した戦後の混乱期を経て平和な社会となった今、改めて我々は、次代を担う青年として自身のあり方、地域のあり方を見つめ直す必要があります。今のこの世界は、地域は、先人達が思い望んだ未来になっているのでしょうか。その答えは、我々の生き方で示すしかありません。

本年度はスローガン「直志響心」を掲げ、一先駆けよう、次代を切り拓く青年であれ—をテーマに青年会議所運動を展開して参ります。「直」とは自分自身と向き合いどんな困難にも折れる事のないぶれない真っ直ぐさを、「志」とは自らの命をどう使うかその覚悟を、「響」とは言動で周りの人々の心に感動を与えられる影響力を、「心」とは先人達への感謝と、共に活動している仲間への感謝を常に持っている心を表しています。ぶれない心で真っ直ぐにただひた向きに、掲げた志に向かい行動する姿は周りに感動を生み、感謝の心を忘れずに自らが率先して動けば、必ずや理想は現実のものになります。そして、2020年ビジョン「地球市民意識溢れる乙訓」の実現に向けて、ファイナルアクションプラン「地域と共に夢と誇りを育む乙訓創り」を今一度、目的達成のための重要なプロセスであると再認識し、一人ひとりが今だけや自分だけを見るのではなく、大きな志を持って未来を見据え、仕事やJC活動を通して関わる人々に対して良い影響を与えられる人物にならなければなりません。目の前に低い壁と高い壁があるならば、先頭を切って高い壁を選べる人物であって欲しい。今活動できている事への感謝を忘れず、自信と誇りを胸に、変革の能動者として先駆けよう、次代を切り拓く青年として。

地域に貢献できる経営者の育成と、市民主導による継続的なまちづくりの礎を築こう

平成26年、日本の各地方における人口減少と、都心部への一極集中化に歯止めを掛け、日本全体の活力を上げる事を目的とした政策「地方創生」が掲げられ、各地域における地域力の向上が求められています。我々の活動エリアである乙訓地域に目を向けると、インフラ面では、京都第二外環状道路の開通や、大山崎ジャンクション、西山天王山駅もあり、非常に交通の利便性が高い地域と言えます。さらに、天王山等の歴史的舞台や光明寺をはじめとする歴史的史跡、名勝が数多く、また、自然豊かな地域であり、観光振興による地域活性化が進められています。しかしながら、近年都心部では、年々進むグローバル化の影響もあり、明らかに外国人観光客が増えており、観光客向け宿泊施設の不足が問題となっているにも関わらず、乙訓地域への観光客流入人口はほとんど増えていない現状があります。地域の課題は様々ですが、次代を担う我々が青年経済人として、今一度自分達の住まう乙訓の経済状況や課題を把握し、多様な価値観を持ち寄って、新たな価値を見出す事で、地域経済の発展に寄与し、地域力の向上に貢献する事が重要です。また、「明るい豊かな社会」の実現を目的に青年会議所運動を展開する我々の多くが、企業経営に携わりながら活動している青年経済人です。自身の企業の存続と発展がなければ、青年会議所活動を継続する事は難しくなります。経営においては、自らの企業や個人の利益を追求するのみならず、常に地域や顧客の利益を意識し、自らの活動が地域に貢献できているのか、今一度見つめ直す事が必要です。そして、経営者は組織のリーダーとして常に「何のために」を考え、自身の最も重要な果たすべき責任は何かを考え、組織のために頑張っている人が成長できるように努めなければなりません。我々は次代を切り拓く青年として、地域にお

いても、企業においても、良きリーダーとしての資質の向上と経営力の向上に努め、地域に貢献すると共に、関わる人々を幸せにできる高い志を胸に活動しなければなりません。

乙訓青年会議所は、37年という長きにわたる歴史の中で、先輩諸兄姉の「自分達の乙訓^{まち}は自分達で創る」という熱い情熱と行動によって、市民・行政・地域諸団体との歩みを進めて参りました。昨年度、開催させて頂いた「乙訓DREAMフェスタ」においても、多くの市民や地域諸団体の皆様方に参加協力頂き、それぞれの活動を広く市民の皆様方へ周知して頂ける場の創出ができたのではないかと考えます。また、二市一町の首長様においても、乙訓地域への貢献度を高く評価頂き、賛同して頂いていると共に、今後の事業に対する期待も高く、今後はこれまでの繋がりをさらに深め、活動していく事が重要です。そして、行政・地域諸団体との繋がりを深め共に活動しながら、乙訓青年会議所が主体となって事業を開催して行く中で、市民・行政・地域諸団体による三位一体となったまちづくり事業を実施し、最終的には市民主導による主体的、継続的なまちづくりへの礎構築を目指さなければなりません。さらに、先輩諸兄姉が築き上げてこられたネットワークを広げ、地域に貢献できる運動を推進するために、多様な価値観を持ち寄って、地域の新たな価値を見出し、地域創生に繋がる運動を発信する必要があります。また、それぞれの地域社会において、町に住まう人々に積極的かつ主体的に政治参加し、政策本位の政治選択をして頂く事を目的に開催している公開討論会を今後も継続して行うと共に、若い世代に政治参加して貰うための環境づくりも重要です。自分達の地域は自分達が創るという意識のもと、市民と我々青年会議所メンバーが集い、一人ひとりが地域に愛着を持って誇りある乙訓^{まち}の創造を目指す事で、ファイナルアクションプラン「地域と共に夢と誇りを育む乙訓^{まち}創り」の実現に努めなければなりません。

愛郷心溢れる乙訓^{まち}の宝の育成と、真の絆で紡ぐ強固な組織を構築しよう

私が子どもの頃を思い返すと、今のように携帯電話や携帯ゲーム機も普及しておらず、学校が終われば仲の良い友達と近所の公園や道路で遊び、また、田んぼや川でどろんこになっていた事を思い出します。もちろん、今思えば道路も田んぼも、本来は遊んで良い場所ではなく、当然ながら近所の怖いおじさんや、おばさんに叱られもしながら遊んでいた事を思い出します。野球をしていて近所の家のガラスを割った時には、みんなで謝りに行ってこっぴどく叱られもしました。自分が大人になった今感じる事は、それらの他愛ない一つひとつが、自分自身の道德の物差しとなり、今も自分に根付いているという事です。また、自然と共に遊んだ記憶は愛郷心となり、地元への愛着と誇りはやがて、自国に対する愛国心や、誇りに繋がっているように思います。改めて今の地域社会を見てみると、地域の子どもは地域で育てるといった考え方は薄れ、子どもと子ども、親と子ども、親と親の関わり方のあり様も変化し、どちらかという個人が尊重され過ぎた世の中になりつつ

あるように感じます。次代を切り拓く青年として、自らを律し、道徳にのっとり、子どもと子ども、親と子ども、親と親の関わり方を見つめ直し、大人同士の関わりも含めた新たなコミュニティのあり方を考える事が重要です。また、乙訓の宝とも言える子ども達の愛郷心を育み、道徳教育を推進する事で、「地域の子どもは地域で育て、自分達の地域は自分達で育てる」という気概を持った人財を育成し、誇れる乙訓の継承に努めなければなりません。さらに、近い将来京都府内において大規模な災害が起きる可能性が極めて高いと言われている今、乙訓の宝を守るために、災害時の対応も含めた防災に対する教育を図ると共に、青年会議所が今まで築いてきたネットワークを活かした新たな災害対策ネットワークの構築に努めなければなりません。

乙訓青年会議所は、先輩諸兄姉が紡いでこられた「歴史」という縦糸と、現役メンバーが紡ぐ「仲間」という横糸を織り込み、独創的で魅力ある織物を創り上げて参りました。乙訓青年会議所をより強固で一枚岩な組織として次代へと繋いで行くために、特別会員の皆様方との交流を図れる場を創出すると共に、現役メンバー同士の絆の構築に努めなければなりません。乙訓青年会議所では「ええもんはええ」「あかんもんはあかん」と相手の事を思いやり、時には相手に一時的に嫌な印象を与えてでも、腹を割って本音で伝え議論する伝統があります。限られた時間の中で、互いに甘える事なく真っ直ぐな心で目の前の課題に取り組み、志を掲げ切磋琢磨し、生涯の友として友情を育まなければなりません。青年会議所活動を通して、先輩諸兄姉への感謝、仲間への感謝、そして、忘れてはならないのが家族と社員の皆様への感謝の心です。家族や社員の皆様の支えがあって活動できている事を忘れる事なく、感謝の言葉を常日頃から伝えると共に、家族や社員の皆様と交流できる場を創出する事で、我々の活動への理解を深めて頂く必要があります。また、先輩諸兄姉が築き上げてこられた市民・行政・地域諸団体との絆を、さらに強固なものにする事を意識しながら活動する事も重要です。自分達が描いたゴールに向かって仲間と気持ちが一つになる。その空気ができ上がって初めて、自分達が既に持っている個性や、能力の全てが相乗効果を生む事に気付かされます。つまり物事を成す上で大切なのは、何よりも人間関係を築く事なのです。一人ひとりが、周りにとっての最善は何かを考え行動する、そんな魅力ある会員が集う組織として、真の絆の構築に努めなければなりません。

一人ひとりの魅力を高め合い、魅力溢れる組織を発信しよう

乙訓青年会議所は、創立当初より同じ志を持った仲間を集い、「明るい豊かな社会」の実現を目的に、志を合わせて運動を展開して参りました。まずは、メンバー一人ひとりが、単年度で活動する一年の役割を全うした時の自分自身の姿を想像して欲しい。私が想像した時に、まず一番に頭に浮かぶのは今よりも魅力ある人間に成長していなければならないという事です。何故なら、個々の魅力が向上し魅力あるメンバーがLOMの中で増え続け

れば、青年会議所運動の根幹である会員の拡大に繋がると考えるからです。会員の拡大は、青年会議所運動を継続発展していくための必須条件であると考えます。その年度の事業規模を次年度にも継続し発展させるためには会員からの年会費が必要であり、会員の減少、すなわち予算の減少は、事業規模の縮小もしくは事業の数を減らす判断を迫られる事に繋がります。また、ある一定の会員数を下回る事は、組織的運営の維持ができなくなる事に繋がり、会員の学びという点においても、LOMの組織的魅力が減少してしまいます。会員拡大は、拡大担当委員会が率先して行動するのは当然ながら、メンバー一人ひとりが、青年会議所活動の中で真剣に学び、真剣に人と出会い、活動する事で得られる成長、すなわち一人ひとりの魅力向上が会員の拡大には必要です。そして、メンバーの成長や言動の変化は、様々な場面で一人ひとりが関わる全ての人に良い影響を与える事に繋がり、魅力あるメンバーが声を掛ければ必ず周りの人の心も動きます。さらに、新たに入会して頂いたメンバーに対しては、青年会議所の活動の意義やルールを日頃から自らの行動でしっかりと示し、自分自身の入会当初を思い返しながらか、思いやりの心を持って、委員会の枠を超えて関わる事が重要です。FTセミナーにおいては、入会年数の短いメンバー同士の絆の構築を図ると共に、入会年数の長いメンバーとの絆の構築も視野に入れながら、受講されるメンバーにとって今後のJC活動とプライベートにもしっかりと良い影響を与えられる事業を構築する事が重要です。一人ひとりがその時その瞬間を大切にしながら、目の前の課題に真剣に、前向きに取り組む事で、一人ひとりの魅力を高め続ける事ができれば、その魅力に自然と人は集まり、拡大担当委員会がなくともメンバーは自然に増えていくと考えます。一人ひとりが周りから魅力ある人だと感じて頂ける、そんなJAYCEEでなければなりません。

青年会議所の魅力とは何かと考えた時、一つ目に「入会時の目的や価値観が青年会議所運動・活動を通してより良く変化する」所にあると考えます。入会時の目的は人それぞれかと思いますが、真剣にまちづくりや人づくり活動を求めて入会される方もおられますが、自己成長や人脈を広げたい、また、仕事に繋がるのではないかといいた、どちらかという自身利益を目的に入会される方が多いのではないのでしょうか。もちろんそれ自体が悪い事ではなく、当初の目的は人それぞれですが、JC活動を通して様々な役職や、多くの気付きや学びを得る機会を経験する事で、自身も気付かない内に目的や価値観が変化し、関わる人に対してより良い変化を与えられる人財へ成長している所に、青年会議所の魅力があると考えます。二つ目は「出会い」です。時に一人の人物との出会いが、大きく人生を変えるきっかけになります。またその出会いは、様々な運動や活動を共に経験し、目の前の高い壁を互いに切磋琢磨し、乗り越える事で本物の絆に変わります。青年会議所は、そんな素晴らしい人との出会いのきっかけが必ず待ち受けている魅力ある団体です。この素晴らしい青年会議所の魅力を、対内においても、対外においてもしっかりと伝えるように発信していく事が重要です。各事業においては、背景や目的を含めた情報発信をすると

共に、メンバー一人ひとりの頑張りや、事業に懸ける熱意や想いを伝える事が重要です。また、地域に貢献する団体として、乙訓青年会議所のブランディングを意識し、情報の発信においては、時代に即した柔軟な発想で、新たな試みを取り入れながら、地域に乙訓青年会議所の魅力を発信していかなければなりません。青年会議所を一つの企業として捉え、対内と対外における情報発信のすみ分けを明確にし、メンバー一人ひとりが輝き、乙訓青年会議所の魅力が地域に広がる、そんな広報に努めなければなりません。

公益性の高い財政支出と、透明性の高い組織運営を推進しよう

乙訓青年会議所には創立当初から培われ、進化を遂げてきた組織体系と、組織を効率的に運用するためのシステムが存在します。先輩諸兄姉から受け継いだ誇れる組織を次代へ引き継ぎ、さらなる発展を目指すために、公益法人としての責任と使命感を持ち、公益性の高い財政支出と、透明性の高い組織運営をより一層強化し、市民の負託と信頼に応えられる青年会議所運動を展開する必要があります。先輩諸兄姉が築き上げてこられた会議運営を継承しながら、建設的で活発な議論を重ねるために、委員会間での情報の共有や意思の疎通を図り、実り多い会議運営を推進しなければなりません。そして、我々の行う事業や運動に掛かる費用はメンバーから預かっている貴重な財源であるという自覚を持ち、費用対効果と公益性を高めるために、公益法人会計基準に基づいた指導の実施と、公益法人として相応しい財務運営を推進する事も重要です。さらに、公益法人として、各種権利の保護、及び、法令の遵守を徹底したコンプライアンス管理を推進し、管理体制を継続できる基盤を確立する必要があります。また、JC活動を通してプライベートや、仕事にも活かす事ができる決まり事や、ルールの周知徹底を図ると共に、効果的な会議を進めるための手法であるロバート議事法や、事業計画書作成方法の習得を推進する事も重要です。公益社団法人の組織の一員である事の使命感を持ち、より良い事業の開催と透明性の高い組織運営を推進し、志あるリーダーとして厳しくも優しく、妥協しない組織運営を目指さなければなりません。

むすびに

多くの先人達の高い志と、ひた向きの行動と、真っ直ぐに生きた優しい「心」の上に今の我々が存在している事を忘れる事なく、今ある地域はいつの時代においても我々と同世代の青年達の高い志と情熱と覚悟を持った行動のもとに創られてきたという事実をしっかりと受け止め、今を生きる青年として「乙訓を創る一人」である自覚を持ち、関わる人々へ少しでも良い影響を与えられる人であるべく邁進して参りましょう。

今活動できている事においては先人への感謝の心を常に抱き、共に活動している仲間へ

の感謝を忘れず、一人ひとりがそれぞれの価値観を持って主体的に活動しながらも和を大切にす。

一つの事に本気で取り組んでいる人の姿を見て心を動かされなかった人はいません。尊敬される人とはその人の持つ能力ではなく生き方であって、知識ではなく行動です。

いつの時代も世の中を「まち」を変えてきたのは時代を先駆けた青年一人ひとりの力であり、今まさに青年である我々一人ひとりなのです。

「直志響心」 ー先駆けよう、次代を切り拓く青年であれー